

## 島根県立看護短期大学における地域貢献

### — 周辺地区の家庭訪問実習、公民館活動との 連携と看護支援システム構築の歩み —

恒松 徳五郎・江角 弘道  
長崎 雅子・吾郷 美奈恵  
吉川 洋子・中谷 久恵  
落合 のり子・曾田 陽子  
若林 由香・栗谷 とし子

Services to the improvement of health and welfare in the  
communities : Students' home-visit nursing practice  
and collaborative work with the Citizens' Public  
Hall for the purpose of establishing the  
nursing support system in a nearby community

Tokugoro TSUNEMATSU, Hiromichi EZUMI,  
Masako NAGASAKI, Minae AGO,  
Yoko YOSHIKAWA, Hisae NAKATANI,  
Noriko OCHIAI, Yoko SOTA,  
Yuka WAKABAYASHI, Toshiko KURITANI

#### 概 要

島根県立看護短期大学は「開かれた大学」として、地域貢献を開学の理念の重要な柱の一つとしている。それを実現するには、周辺地区との信頼と友好関係の樹立が重要と考えた。看護学科一年次学生がおこなう基礎看護実習での家庭訪問実習は優れた教育効果をもたらすとともに、地区住民から高い評価を得ることが出来た。さらに地区住民のための在宅看護支援体制を確立するために、テレビ会議システムを導入し、公民館に設置して本学との間で双方向の音声と画像の交信実験を行い目的達成の有効な手段になると考えられた。この実験は、地域住民の教育に対する理解並びに本学との信頼と友好関係が土台となり実現したものである。

キーワード：開かれた大学、地域貢献、周辺地区の家庭訪問実習、テレビ会議システム、在宅看護支援システム

## I. 緒 言

島根県立看護短期大学は平成7年4月に、県民の大きな期待を担って出雲市西林木町に開学した。出雲平野を流れる斐伊川の下流部の左岸の平地部に位置し、北方約1kmには北山山系が東西に走っている。この地は出雲神話と深いかわりがあり、多くの古墳群、大寺薬師、鳶が巣（とびがす）城跡、など、史跡や文化財に恵まれている。山裾（すそ）に東林木町、西林木町があり、両町を併せて鳶巣地区と称している。この地区の人口は1,629名（男804名、女825名）、世帯数は416である。（平成9年9月現在）。

この地区は明治5年新学制が施行されると、他の地区に先駆けて学校が設けられ、以後、教育こそ地区向上の根源であるとの認識と共に歴史を歩んできたところである<sup>1)</sup>。教育に熱心な気風は今日にも伝えられており、当看護短期大学設置に際しては、短大設置促進期成同盟を結成して運動を進めるなど本学設置に対する熱い思いと大きい期待には並々ならぬものがあった。

本学の開学の理念についてはすでに述べたところであるが<sup>2)</sup>、その内の一つである「開かれた大学」として教育、研究の成果を地域に還元して人々の健康と福祉の向上に貢献したいと考えている。そのためには先ず地域の事情を理解して、そこに在住する住民の方々と本大学との間に信頼に基づいた円滑な関係を構築する事が必要と考えた。

教育においては、看護学科1年次に基礎看護実習Iで家庭訪問実習を行うこととした。これは初期の段階から、看護の対象の理解を個人のみでなく家族を含めて、また疾病中心でなく、生活と健康のかかわりの中から深めさせるものである。

この家庭訪問実習は鳶巣地区で行ったが、その実施については、住民の教育に対する理解により快く受け入れられるとともに、多大の協力を得て、満足すべき教育的成果が得られた。この点については、後に発表の予定である。特記すべきことは、この訪問実習を通して本学と地

区住民との間に信頼と円滑な友好関係を一段と深めることが出来た。

我々はこの関係を土台として地区住民に最も適した在宅看護支援体制を構築すべく公民館と連携して研究活動を展開することとした。その第一歩としてテレビ会議システムを導入して本学と公民館とを結び、地区住民との間で音声と画像の双方向の交信が出来るように種々検討を行った。このシステムが上記の目的達成に有力な手段になると思われた。ここでは現在までに得られた成果、すなわち、教育においては家庭訪問実習、研究においてはテレビ会議システムによる在宅看護支援システム構築の足どりを述べる。

## II. 家庭訪問実習を通じての鳶巣地区との交流

### 1. 方 法

基礎看護実習Iは看護学科1年次の学生が10月から3月にかけて行方臨地実習（45時間、1単位）である<sup>3)</sup>。実習目的は「看護の対象の生活および健康に関わる因子と生活との関係を理解し、看護への視野を広げる」としている。実習内容は家庭訪問実習（家庭で生活している人を対象とする）および病院実習（入院患者を対象とする）からなる。

家庭訪問実習の実施に当たっては、鳶巣地区の公民館の老人会が42世帯（家庭）を選んだ。

学生（84名）（女子81名、男子3名）が2名一組となり一家庭を訪問する。上記実習期間内に月1回、計3回、毎回の訪問時間を約2時間となるよう学生が計画する。学生はこの実習を通して、地区の人々との出会いがあり、次いでコミュニケーションによって人間関係が形成される。これらの過程を学生が感想としてまとめる。家庭訪問に協力いただいた謝辞と共に、各家庭に学生の感想を配る。そして、家庭訪問実習が地区の人々にどの様に受け止められたかについて調査を行った。その詳細は別に報告するが、ここでは家庭から寄せられた感想を述べる。

## 2. 結 果

基礎看護実習Ⅰの家庭訪問実習が今日の看護教育の中で果す教育的評価は教員, 学生, 訪問を受けた家庭の人々それぞれの立場でなされ, さらにそれらを統合してなされなければならない。ここでは, 家庭訪問を受けた家庭がこの実習をどの様に受け止めたかについて感想を述べる。

(1)実習は大変, 有意義であり, 若い学生との素晴らしい出会いがあった。(2)学生が控え目で落ち着いた態度で適切な質問をする一方で, 聞き上手であるので楽しい会話が持てた。(3)看護教育には, 学内での基本的学習はもちろん大切であるが, 実社会での看護には人間関係が大きいウエイトを占める。実習で来た二人の学生は, 優しくて他人を気遣う看護精神の持ち主であったので嬉しく接することが出来た。(4)7回も腸の手術をして, 生死をさまよった時の心の支えは看護婦さんであったので, 卒業後は, 人の心を思いやることの出来る人になって欲しい。(5)実習終了後に迎えた新年に, 学生から年賀状を貰い感激した。美しい人間関係, 心のふれあいの出来たことが嬉しかった。その他, 病院に入院経験のある人, 家庭療養をしている人, 家族の介護に携わった人などから, いづれも好意的な意見が寄せられた。公民館長からも絶大な謝辞と今後の協力を申出られた。この家庭訪問実習によって, 学生と地区住民との間での良き人間関係が形成されるとともに鳶巣地区と当大学との間にさらに一段と強い信頼と友好関係が結ばれた。

### Ⅲ. 公民館活動との連携および テレビ会議システムによる 在宅ケア支援体制の構築

#### 1. 方 法

公民館は社会教育法に基づいて, 市町村その他一定区域内の住民に対して各種の事業を行うが, その目的は住民に教養の向上, 健康の増進, 情操の純化を計り, 生活文化の振興, 社会福祉の増進に寄与することである。

この目的達成のため, 青年学級の実施, 定期講座の開設, 討論会, 講習会, 講演会, 実習会, 展示会等の開催, 図書, 記録, 模型, 資料の備え・利用が行われている。

地区住民のために在宅看護支援体制を構築する講習会, 実習会等を開催するのに, 公民館の事業活動との連携で行うことにした。まず, テレビ会議システムによる在宅看護支援体制の構築のため実験を行った。

テレビ会議システムは, 江角教授らにより説明されている<sup>4)</sup>ので, ここでは解説的に簡単に述べる。京セラのビデオコミュニケーション・システムKT-6100を使用した。この装置の基本回線はNTTのINS64である。本システムはテレビを通じて互いに話し合い, 映像やデータを送りあう双方向の通信が可能である。従来よりあるテレビ電話は, 主として一対一の双方向の対話であるのに対して, テレビ会議システムは複数の人による双方向の対話が可能であることが大きい特徴である。

システムは本体と左右180°回転できる受像カメラ, マイクロフォン, テレビ, 遠隔操作盤からなり, これに脈拍, 血圧, 心電図のモニター装置を付けることができる。相手先からの着信で自動的に電源がONになり通信開始もでき, カメラの遠隔操作でズームにすれば細部にわたり観察することが出来る。在宅看護支援システム構築に適する手段であると判断して, これを導入した。

まず学内の地域看護実習室と図書館とにこのテレビ会議システムを設置して予備実験を繰り返した後, 約1 km離れた鳶巣公民館に設置して, 本学と連結した。

#### 2. 結 果

まず, 本学内で予備実験を行った。地域看護実習室の和室と図書館を結びシステムの操作性を検討した。その結果, ①早い動きに対しては画像がやや不鮮明になる, ②画像と音声にずれを生ずる, ③良好な撮影条件として, 採光に配慮する, ④服装などの色彩, 模様は画像鮮明度

に影響する, などを知った。ズームにすれば人の肌の色, 艶, その他の細部を観察できた。脈拍, 血圧, 心電図の送受信も一応, 使用出来ると判断された。

第2回の実験として, 本学地域看護実習室と鳶巣公民館を結ぶ実験を行った。本学の共同研究者が公民館に出向いて公民館職員と共に看護技術を実際に行いながらシステムの操作性と機能などの評価を行った。

第3回実験には公民館に住民, 関係機関の保健婦等の参加の下で, 共同研究者がシステムの説明, 操作などのデモンストレーションを行った。さらに地域看護実習室から, 共同研究者が「健康づくりにおける運動」を紹介して, 両場所参加者全員が実演に参加した。

これらの実験では速やかな運動と号令との間に時間差(2-3秒)のあることが問題となった。カメラの位置に関しては, 参加者の正面に据えることで, テレビ会議に参加している意識が高まるとの意見があった。今後, テレビ会議システムを通じての紹介や指導の方法については更に検討が必要と思われた。意見交換会ではこのシステムが近い将来において, 在宅看護支援体制確立に役立ち得るものであるとの多くの意見を得た。

第4回実験として本学での公開講座を公民館に放映した。広い会場に多数の参加者がいるときは, 全体的な状況を画像として転送するには適さず, せいぜい双方ともに10名前後のグループ間でのコミュニケーションに有用と判断された。また, 講演に際して使用したスライドの画像の転送は良好ではなかった。なお, 本実験に要する経費は電話料金で, 1時間250円程度である。

#### IV. 在宅看護支援体制確立のための 今後の計画

鳶巣公民館で施行されている諸活動には種々のものあり, 地域交流事業については本看護短大は積極的に参加している。公民館が他の機関との共同で実施している関連事業もあり, 代表的なものとしては地区内で結成されている「健

康を守る会」が健康モデル事業として「健康診断」を年1回, 出雲市の計画に基づいて保健婦が「健康相談」を月1-2回行っている。「胃がん子宮がん検診」が年1回, 「介護教室シリーズ」(数回), 「成人大学講座」月1-2回あり, 福祉と介護あるいは健康に関するテーマが採り上げられている。

これらの事業に定期的または不定期的に参加して, テレビ会議システムを用いた次の事業を展開する予定である。

1. 看護短大で行う専任教員の講義, 演習, カンファレンスに地区住民が参加して双方向的に質疑, 応答を行う。将来は家庭に於いても学習が出来るようにする。
2. 公民館に於いて看護短大と共同で行った事業の報告会, 反省会などを開催して双方向的に意見交換をする。
3. 月に1回程度, 本学教員, 学生が看護に関する指導を行う。本学の看護実習室での実技をデモンストレーションして在宅看護に関する講習会を行う。「介護用具の活用方法」, 「日常生活におけるボディ・メカニクス」, 「家庭での食事診断(栄養士と共に)」などをテーマとする。
4. このテレビ会議システムは, 最終的には地域での在宅看護を支援するシステムを構築する事を目的としている。従って, 各家庭に配置して日常的な看護ケアに何処まで活用出来るかを今後検討する。

#### V. 考 察

島根県立看護短期大学は開学以来, 建学の理念の一つである「開かれた大学」を実現するため諸事業を行っている。その中で最も早く着手したのが本大学が所在する周辺地区との信頼・友好的関係の樹立であった。鳶巣地区は開学前及び開学後も積極的に教育に対する支援の姿勢を示し, 本学に期待するところも大きい。それに応えるには地区住民の健康と福祉の向上に貢献すべきであると考えた。その実現には地区住民との交流を深めることと人々が持つ健康に関

するニーズ, 殊に在宅介護, 在宅療養に関するニーズを把握することが重要であると考えた。

看護学生の教育には診療所, 病院に入院している患者さんだけでなく地域で生活または療養する人々と交流し, 対話を通じて個別的な諸問題を学ぶ事が重要であるとの認識を持った。そこで本学の看護学科のカリキュラムとして1年次生の基礎看護実習Iにおいて家庭訪問実習を行うこととした。鳶巣公民館の協力を得て準備を進めたところ, 地区住民は本学の教育方針を十分に理解した上で実現の運びとなった。この家庭訪問実習により学生は地区の人々と貴重な人間的交流を持つことが出来たこと, また教育的観点からも大きい成果が得られた。この点に関しては, 別に報告する予定である。特筆すべきは, この訪問実習に対する地区住民の感想であり, 極めて好意的であり, 今後も引き続いて協力をしたいとの意見が述べられた。本学と地区住民と一段と深い信頼と友好関係が確立されたと思っている。

島根県は我が国において最も高齢化の高いところであり, 鳶巣地区も例外ではない。近い将来には在宅での要介護・看護者が増加することが予想される。このニーズに応えるための人的ならびに物的資源が十分に整備されているかについては疑問無しとは言えない。介護・看護の質を確保するか, または, さらに一層の向上をもたらすためには従来から行われ来た人的, 物的資源のみでは不十分であり, 新たな発想, 工夫が必要と思われる。そのための試みとしてテレビ会議システムを導入して, これを公民館に設置して実験を行い地区住民の在宅看護支援体制の確立のための手段になり得るかを検討した。現在, このテレビ会議システムは, 我々が設定した目的達成のためには部分的ではあるが有望な手段になるとの結論を得た。

公民館に於いて地区住民参加の下に実験を行い得たのは, 地域住民の教育に対する理解と本学と地区住民との信頼と友好の関係があつてこそ可能になったと考えている。

高齢化社会では, 保健, 医療・看護, 福祉の

緊密な連携のもとに, 地域住民の健康を支えなければならない。本学が所在する出雲市を例に取れば, 人々を中心に据えて公民館, 健康福祉センター, かかりつけ医, 診療所, 病院, 市町村, 医科大学, 訪問看護ステーション, 看護短期大学等を結ぶネットワークを構築して緊密な相互連携行動をとることが強く求められよう。この観点からも看護を専門とする本学が果たすべき地域貢献の方向性と内容は明らかであり, 「開かれた大学」としての本学の理念を実現せねばならない。

## 結 語

本学は「開かれた大学」を建学の理念の重要な柱としており, その実現に向けて地域貢献に取り組んでいる。大学周辺の鳶巣地区の家庭訪問実習を行い良好な教育的成果を得ると共に, 本学と同地区との間に信頼と友好関係が築かれた。今後, 重要となる在宅看護支援体制をこの地区で確立するために, 公民館活動との連携を進めている。今回は, テレビ会議システムを導入して実験を行った。地区住民の在宅介護・看護支援体制の構築に有用な手段になると思われた。本学が地域貢献を実践する場合, 本学と周辺地区住民との信頼と友好関係樹立が特に重要であることを強調した。この関係を, 周辺地区から広い地域へと広げて行くつもりである。

## 文 献

- 1) 鳶巣教育文化百年の記録—鳶巣小学校百年史 : 鳶巣教育史編纂委員会, 1979
- 2) 恒松徳五郎, 磯岩壽満子, 長崎雅子, 他 : 島根県立看護短期大学の地域貢献と情報ネットワークシステム, 島根県立看護短期大学紀要, 1, 65-72, 1996
- 3) 基礎看護実習要項, 平成7年度臨地実習要項 : 島根県立看護短期大学, 1995
- 4) 江角弘道, 吾郷美奈恵, 落合のり子, 他 : テレビ会議システムによる在宅ケア支援システムの開発I, 島根県立看護短期大学紀要, 投稿中3, 1998